

2024 年度年次報告書

文理融合による人と社会の変革基盤技術の共創

2022 年度採択研究代表者

石川 翔吾

静岡大学 学術院情報学領域

准教授

Well-being 最大化のための個性適応型目標創生

研究成果の概要

本研究では、認知症ケアという重要な社会的課題において、主観的・客観的個性表現モデルを構築しシミュレーションするという情報科学的な研究とともに、Well-being 最大化を実現するためのケア DX 技術の開発を目指している。

R6 年度は、ケア実施記録情報を運用するための仕組みを開発しケアの質向上への有効性について初歩的な検証を実施した。具体的には、LLM を活用して自動的にケア記録を可視化するための仕組みを開発した。評価実験として1施設において1ヶ月間の運用を本システムで実施した結果、情報共有が促進され、情報の活用においても経験による差が小さくなることが示唆された。また、利用者情報が直観的に理解しやすくなることで、利用者の情報を積極的に収集するようきつかけになったことが確認された。一方で、可視化方法、ユーザビリティにおいては課題があり、継続的に検討を進めていく。

発展的な展開として、記録情報の分析方法を他のドメインにおいても応用できることが確認された。その一つとして、若者のチャットにおける悩み相談の内容を分析し、相談者属性を類型化できることが示された。このような類型を応用することで、悩み相談チャットボット等に展開されることが期待される。さらに、記録情報を作成した施設スタッフに着目することで、介護スタッフ毎にケアの質を評価し、不足している視点を抽出、指導する仕組みへの可能性も示唆され、今後、試験的に実施していく予定である。

最後にケアプロフェッショナルのケアの質向上させるための仕組みとして進めている、認知症の人の視点で障害体験するためのメタバースを活用した PX 体験プラットフォームにおいて、認知症当事者との Co-production を実施した。本システムにおいてケアプロフェッショナルのケアの質向上という側面だけでなく、当事者自身の障害の客観化や障害の機能・構造について理解を深めていく当事者研究の側面もあることが示唆された。